

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

Dara-Bd 療法

3-4 週毎 コース予定

疾患名 多発性骨髄腫

主治医 指導医 HBs 抗原(+ -) HBc 抗体(+ -) HCV 抗体(+ -)

スケジュール

【1-3 コース目:1 サイクル 21 日間】

《注射》		day1	...	day4	...	day8	...	day11	...	day15
ダラザレックス(ダラツムマブ)	16 mg/kg	↓				↓				↓
ベルケイド(ボルテゾミブ)	1.3 mg/m ²	↓		↓		↓		↓		
《内服》		day2	...	day4, 5	...	day9	...	day11,12		
レナデックス(デキサメタゾン)	20 mg/body	↓		↓ ↓		↓		↓ ↓		

【4-8 コース目:1 サイクル 21 日間】

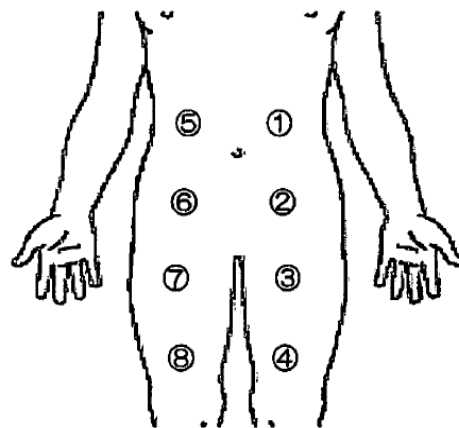
《注射》		day1	...	day4	...	day8	...	day11	...	day15
ダラザレックス(ダラツムマブ)	16 mg/kg	↓								
ベルケイド(ボルテゾミブ)	1.3 mg/m ²	↓		↓		↓		↓		
《内服》		day2	...	day4, 5	...	day8, 9	...	day11,12		
レナデックス(デキサメタゾン)	20 mg/body	↓		↓ ↓		↓ ↓		↓ ↓		

【9 コース目以降:1 サイクル 28 日間】

《注射》		day1
ダラザレックス(ダラツムマブ)	16 mg/kg	↓

- 【注意】 *ダラザレックスはインラインフィルター(0.2 又は 0.22 ミクロン)を用いて投与すること
 *ダラザレックスは 50 mL/時の投与速度で点滴静注を開始し、患者の忍容性が良好な場合は、患者の状態を観察しながら、投与速度を段階的に上げることができる。ただし、投与速度は 200 mL/時を超えないこと。
 *初回投与開始時から 3 時間以内に Infusion reaction が認められなかった場合、2 回目以降、希釈後総量を 500 mL にすることができる。また初回及び 2 回目投与時に最終速度が 100 mL/時以上で Infusion reaction が認められなかった場合、3 回目以降 100 mL/時から開始することができる。
 *慢性閉塞性肺疾患もしくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合はダラザレックス投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイドの投与を考慮すること。
 *ST 合剤やアシクロビル等の内服を考慮する
 *ボルテゾミブは 1 回投与量 1.3 mg/m²を生食で濃度が 2.5 mg/mL になるよう溶解し、皮下注射する。毎回同じ部位に皮下注射することがないように、注射部位をローテートする。

☆通常量より減量する際の理由☆



(レジメン)

【1 コース目】

day 1

- | | |
|---|---------------|
| ① 生食 500 mL にて血管確保 | 維持 (20 mL/時間) |
| ② レスタミン (10 mg) 5 錠 | 内服 |
| ③ カロナール (500 mg) 2 錠 | 内服 |
| モンテルカスト (10 mg) 1 錠 | 内服 |
| ④ デキサメタゾン注 16.5 mg (5 mL) + 生食 20 mL | 側管静注 |
| ☆ 1 時間後より | |
| ⑤ ダラザレックス + 生食 適量(全量 1000 mL) | |
| * 初回は希釈後の総量 1000 mL とし点滴静注を開始(※注意参照) | |
| ◎ 輸液ポンプにて 50 mL/時間で点滴静注を開始(※注意参照) | |
| ⑥ 50 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、 | |
| ◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注 | |
| ⑦ 100 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、 | |
| ◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間で点滴静注 | |
| ⑧ 150 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、 | |
| ◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注 | |
| ⑨ ベルケイド + 生食 適量 | 皮下注 |
| * ベルケイドは1バイアルを生食 1.2 mL に溶解後(2.5 mg/mL)、必要量()mL を抜き取る。 | |

day 4, 11

- | | |
|---|-----|
| ① ベルケイド + 生食 適量 | 皮下注 |
| * ベルケイドは1バイアルを生食 1.2 mL に溶解後(2.5 mg/mL)、必要量()mL を抜き取る。 | |

DBd 療法

day 8

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持 (20 mL/時間)
- ② レスタミン (10mg) 5 錠 内服
- ③ カロナール (500 mg) 2 錠 内服
- モンテルカスト (10 mg) 1 錠 内服
- ④ デキサメタゾン注 16.5 mg (5 mL) + 生食 20 mL 側管静注

☆ 1 時間後より

- ⑤ ダラザレックス + 生食 適量(全量 500 mL)

*希釈後の総量 500 mL とし点滴静注を開始(※注意参照)

◎ 輸液ポンプにて 50 mL/時間で点滴静注を開始(※注意参照)

- ⑥ 50 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注

- ⑦ 100 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、

◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間で点滴静注

- ⑧ 150 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、

◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注

- ⑨ ベルケイド + 生食 適量 皮下注

*ベルケイドは1バイアルを生食 1.2 mL に溶解後(2.5 mg/mL)、必要量()mL を抜き取る。

day 15

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持 (20 mL/時間)
- ② レスタミン (10 mg) 5 錠 内服
- ③ カロナール (500 mg) 2 錠 内服
- モンテルカスト (10 mg) 1 錠 内服
- ④ デキサメタゾン注 16.5 mg (5 mL) + 生食 20 mL 側管静注

☆ 1 時間後より

- ⑤ ダラザレックス + 生食 適量(全量 500 mL)

*希釈後の総量 500 mL とし点滴静注を開始(※注意参照)

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注を開始(※注意参照)

DBd 療法

- ⑥ 100 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、
◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間で点滴静注
- ⑦ 150 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、
◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注

day 2, 4, 5, 9, 11, 12

レナデックス錠 20 mg 内服

【2-3 コース目】

day 1, 8

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持 (20 mL/時間)
- ② レスタミン (10 mg) 5 錠 内服
カロナール (500 mg) 2 錠 内服
モンテルカスト (10 mg) 1 錠 内服
- ③ デキサメタゾン注 16.5 mg (5 mL) + 生食 20 mL 側管静注
☆ 1 時間後より
- ④ ダラザレックス + 生食 適量 (全量 500 mL)
* 希釈後の総量 500 mL とし点滴静注を開始 (※注意参照)
◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注を開始 (※注意参照)
- ⑤ 100 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、
◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間で点滴静注
- ⑥ 150 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、
◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注
- ⑦ ベルケイド + 生食 適量 皮下注
* ベルケイドは1バイアルを生食 1.2 mL に溶解後 (2.5 mg/mL)、必要量 () mL を抜き取る。

day 4, 11

- ① ベルケイド + 生食 適量 皮下注
* ベルケイドは1バイアルを生食 1.2 mL に溶解後 (2.5 mg/mL)、必要量 () mL を抜き取る。

DBd 療法

day 15

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持 (20 mL/時間)
- ② レスタミン (10 mg) 5 錠 内服
カロナール (500 mg) 2 錠 内服
モンテルカスト (10 mg) 1 錠 内服
- ③ デキサメタゾン注 16.5 mg (5 mL) + 生食 20 mL 側管静注

☆ 1 時間後より

- ④ ダラザレックス + 生食 適量(全量 500 mL)
*希釈後の総量 500 mL とし点滴静注を開始(※注意参照)

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注を開始(※注意参照)

- ⑤ 100 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、

◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間で点滴静注

- ⑥ 150 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、

◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注

day 2, 4, 5, 9, 11, 12

レナデックス錠 20 mg 内服

【4-8 コース目】

day 1

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持 (20 mL/時間)
- ② レスタミン (10 mg) 5 錠 内服
カロナール (500mg) 2 錠 内服
モンテルカスト (10mg) 1 錠 内服
- ③ デキサメタゾン注 16.5 mg (5 mL) + 生食 20 mL 側管静注

☆ 1 時間後より

- ④ ダラザレックス + 生食 適量(全量 500 mL)

*希釈後の総量 500 mL とし点滴静注を開始(※注意参照)

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注を開始(※注意参照)

DBd 療法

⑤ 100 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、

◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間で点滴静注

⑥ 150 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、

◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注

⑦ ベルケイド + 生食 適量 皮下注

*ベルケイドは1バイアルを生食 1.2 mL に溶解後(2.5 mg/mL)、必要量()mL を抜き取る。

day 4, 8, 11

① ベルケイド + 生食 適量 皮下注

*ベルケイドは1バイアルを生食 1.2 mL に溶解後(2.5 mg/mL)、必要量()mL を抜き取る。

day 2, 4, 5, 8, 9, 11, 12

レナデックス錠 20 mg 内服

【9 コース目以降】

day 1

① 生食 500 mL にて血管確保 維持 (20 mL/時間)

② レスタミン (10 mg) 5 錠 内服

カロナール (500 mg) 2 錠 内服

モンテルカスト (10 mg) 1 錠 内服

③ デキサメタゾン注 16.5 mg (5 mL) + 生食 20 mL 側管静注

☆ 1 時間後より

④ ダラザレックス + 生食 適量(全量 500 mL)

*希釈後の総量 500mL とし点滴静注を開始(※注意参照)

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間で点滴静注を開始(※注意参照)

⑤ 100 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、

◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間で点滴静注

⑥ 150 mL/時間で 60 分点滴静注した後、患者の忍容性が良好な場合、

◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間で点滴静注

DBd 療法

1-3 コース目

1 コース					
	day1	day4	day8	day11	day15
月日	/	/	/	/	/
ダラザレックス 開始時刻	↓		↓		↓
ベルケイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	
確認					
2 コース					
	day1	day4	day8	day11	day15
月日	/	/	/	/	/
ダラザレックス 開始時刻	↓		↓		↓
ベルケイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	
確認					
3 コース					
	day1	day4	day8	day11	day15
月日	/	/	/	/	/
ダラザレックス 開始時刻	↓		↓		↓
ベルケイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	
確認					

4-8 コース目

4 コース					5 コース			
	day1	day4	day8	day11	day1	day4	day8	day11
月日	/	/	/	/	/	/	/	/
ダラザレックス 開始時刻	↓				↓			
ベルケイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認								

DBd 療法

	6コース				7コース			
	day1	day4	day8	day11	day1	day4	day8	day11
月日	/	/	/	/	/	/	/	/
ダラザレックス 開始時刻	↓				↓			
ベルケイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認								
	8コース							
	day1	day4	day8	day11				
月日	/	/	/	/				
ダラザレックス 開始時刻	↓							
ベルケイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓				
確認								

※9コース目以降

	コース	コース	コース	コース	コース
	day1	day1	day1	day1	day1
月日	/	/	/	/	/
ダラザレックス 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓
確認					

	コース	コース	コース	コース	コース
	day1	day1	day1	day1	day1
月日	/	/	/	/	/
ダラザレックス 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓
確認					